

#### (4) 意見交換会

##### 1) 質問・意見カード

基調講演や事例発表に基づき、参加者より下記のような質問・意見カードが挙げられました。

(◇：質問 ◆：意見)

##### ①九州自然歩道の現状について

<魅力>

◇九州自然歩道は他の自然歩道と比べて何が魅力的か？

◇現在の九州自然歩道は舗装道路が多くなってしまったが、大丈夫だろうか？

<問題点>

◆九州自然歩道は、現在ほとんど使われていない。

<管理運営>

◆既に霧島では民間による活動を行っている。(不具合箇所は鹿児島県観光課等へ)

##### ②今後の九州自然歩道について

<新規路線等>

◆九州脊梁山地を自然歩道に取り上げて欲しい。

◆九州自然歩道の見直しと新規設定をして欲しい。

◆ロングトレイルの毛細血管の様なミニトレイルも多くあったら良い。

◆鉄道路線に沿ってのロングトレイルも考えられる。(例；熊本駅～博多駅)

##### ③アパラチアン・トレイルについて

<ロングトレイルを生んだ背景・文化>

◇アメリカのロングトレイルはどのような経緯で誕生したのか？

◇アメリカで地域の人がバックパッカーに親切にするようになったのはなぜか？

◆外国人と日本人の自然への接し方の違いを感じる。日本の登山の現状は頂上に立つことが目的になっており、様々な自然の楽しみ方を学ぶ必要がある。

◆(日本のトレイルも)現代のお伊勢参りまで高める必要がある。

<魅力>

◇ジョンミューアトレイルとアパラチアン・トレイルの魅力の違いは何か？

<施設整備・管理>

◇アパラチアン・トレイルのホワイトブレイズ(誘導標識)の白色のペイントは、普通のペンキか？

◇区間によって管理の温度差はあるのか？

<運営>

◇ボランティアに対する国の支援は？

◇全ルート踏破認定証発行の判定方法は？

<その他>

◇お金がなくともアパラチアン・トレイルを歩く方法はあるか？

##### ④信越トレイルについて

<全般>

◇信越トレイルの問題点は？

<施設整備>

◇トレイルは地権者の境界に作られているのか？

◇トイレ設備はどうしているのか？

<環境管理>

◇熊による事故とその対策は？

◇鹿による食害とその対策は？

◇信越トレイル内の国有林には“森林生物遺伝資源保存林”の様な厳しい制約があるのか？

<運営>

◇信越トレイルの関係町村の事務局体制は？(予算等)

◇ボランティアによる調査の指導者と謝金は？

- ◇信越トレイル設置後の成果（経済面・その他）は？
- ◇「森の家」の施設の整備主体と経営方法は？
- ◇信越トレイルの完歩者数は？
- ◇全ルート踏破認定証発行の判定方法は？
- ◇リピートしない体験メニューとは？
- ◆トレイルづくりというコミュニティビジネスの成功例である。
- ◆「森の家」という自然学校と信越トレイルのエコツーリズムとの組み合わせによる地域づくりの素晴らしい事例。

## ⑤ロングトレイルについて

### <施設管理>

- ◇自然歩道の荒れた箇所の整備は（どうすればよいのか？）

### <普及・啓発>

- ◇ロングトレイルの価値（距離を歩くことの魅力）を普及するには？
- ◇地方の方に九州自然歩道を認識してもらう方法は？（アパラチアン・トレイルや信越トレイルではどうしているのか？）
- ◆自然歩道＝ロングトレイルは、“人と自然と文化と歴史”の象徴である。＝環境教育の道
- ◆自然歩道＝ロングトレイルは、“自然学校”＝環境教育の場である。

## ⑥ボランティア意識について

### <意識>

- ◇ボランティアに人はなぜボランティアをするのか？
- ◇ボランティアの人のモチベーションは何か？
- ◇ボランティア意識を広く浸透させるにはどうすればよいのか？
- ◇民間ボランティアによる整備を進めるための意識改革の方法は？

### <運営>

- ◇ボランティアやコーディネーターは無償か？
- ◇ボランティアの参加者の集め方は？
- ◇官民協働の役割分担について課題・理想像を教えてください。
- ◆ボランティアモデルには限界がある。ビジネスモデルの例示を。

## ⑦その他

- ◇写真の上達方法は？
- ◇九州中央山地の世界自然遺産についてどう考えるか？
- ◇トレイル活用と自然保護とのジレンマは感じないか？
- ◆加藤さんのお話はとても面白い。

## 2) 質疑応答抄録

質問・意見カードに基づき、主に下記の点について、加藤・木村両講師より回答を頂きながら意見交換を行いました。

### ①アパラチアン・トレイル（米国）でのボランティア意識の高さの理由について

- アメリカは元来ボランティア精神の豊かな土壌でもあるが、アパラチアン・トレイルは、ジョージア州からメイン州に至る 3500km もの長距離のトレイルとして、沿線地域の人々が“ブランド”と認識するまで誇りに思っており、同時にそこを歩く利用者に対してもリスペクトするようになってきたためと考えられる。（加藤氏）

### ②ボランティア意識を高めていく方策について

- ブランド力を高め、ボランティアが「地域で自分が働いている（貢献している）」ということを実感し、誇りを持ってもらうようにすることが大切である。また、我が国でも阪神淡路大震災以降、中高年者層を中心に社会貢献活動の機運が高まってきているため、行政はこれを後押しするようにしていく必要がある。（加藤氏）

○まずは、フィールドとして守らなければならないという哲学と、そのような環境があることを認識させることが必要。信越トレイルでは、ボランティアに「(自分たちが) 地域をつくるんだ」という意識をもってもらうために、ボランティア自身が“目標”を立てたり“達成感”や“楽しさ”を感じてもらうことが大切と考え、事務局がその演出を工夫している。例えば、『市民インストラクター』登録制度等を創設してインターネットで募集し、登録者それぞれが各種の環境調査等のリーダーとして楽しみながら活躍頂いている。(木村氏)

#### ③ボランティアとビジネスとの接点の調整について

○信越トレイルは積雪地にあるため、特に降雪後等のトレイルの維持管理を行わなければ利用できなくなってしまうことから、沿線の民宿等が協働管理に参加しているという背景もあるが、それよりも最近ではより積極的に、信越トレイルの利用者を対象とした利用者サービスを、ガイドや旅行者、宿泊施設、登山洋品店等が取り組み始めている。これはとても良い傾向だと思うが、現在よりももう少し利用が増えないと、ビジネスモデルとしてはまだ確立しないであろう。(木村氏)

○信越トレイルの設置の目的は、地域の経済と心の再生にあるため、(上記のような民間の取り組みは)望ましい。但し、オーバーユースの問題等利用と保護のバランスをとることは非常に難しく、管理者側の責任でもある。(加藤氏)

#### ④ミーティングの総括について

<ミーティングの意義について>

○今般のミーティングは、(九州各地で活動されている参加者同士の) 横の連携を取る場として非常に重要な会となった。(加藤氏)

<九州地域(九州自然歩道)の特筆すべき点について>

○九州は優れた自然資源と熱意のある人材があることが特徴的である。(木村氏)

○九州自然歩道の注目すべき特徴は、大陸や黒潮文化圏との文化的・歴史的つながりが深いことにある。集落の地名等にもこれに影響したものが見受けられ大変興味深い。これらの特徴を整理することができれば、中国や韓国等外国からの利用者も増えるのではないかと考えられる。(加藤氏)

<今後の九州自然歩道に必要なことについて>

○自然歩道を利用するにあたっては、“マップ”も非常に重要になってくる。これには、郵便局やコンビニ等利用便益を向上させるための(民間的)情報が必要であるが、国ではこれを作ることができない。従ってこれを作ることのできる(民間の)仕組みづくりを行うことができればと考えている。(加藤氏)

○九州自然歩道は「九州の自然を守るシンボル」としての自然歩道であるという“哲学”を示すことができれば、(九州自然歩道の保全・活用管理に)賛同する人も増えるものと思われる。これには、個人ボランティアだけでは難しく、行政が出すぎてもだめである。両者が仲間づくりを行って“公益性”をキーワードに自然歩道を作ることの使命感を持っていただくことが重要である。(木村氏)

基調講演・事例発表・意見交換会の要旨を記録した板書（ファシリテーショングラフィック）

